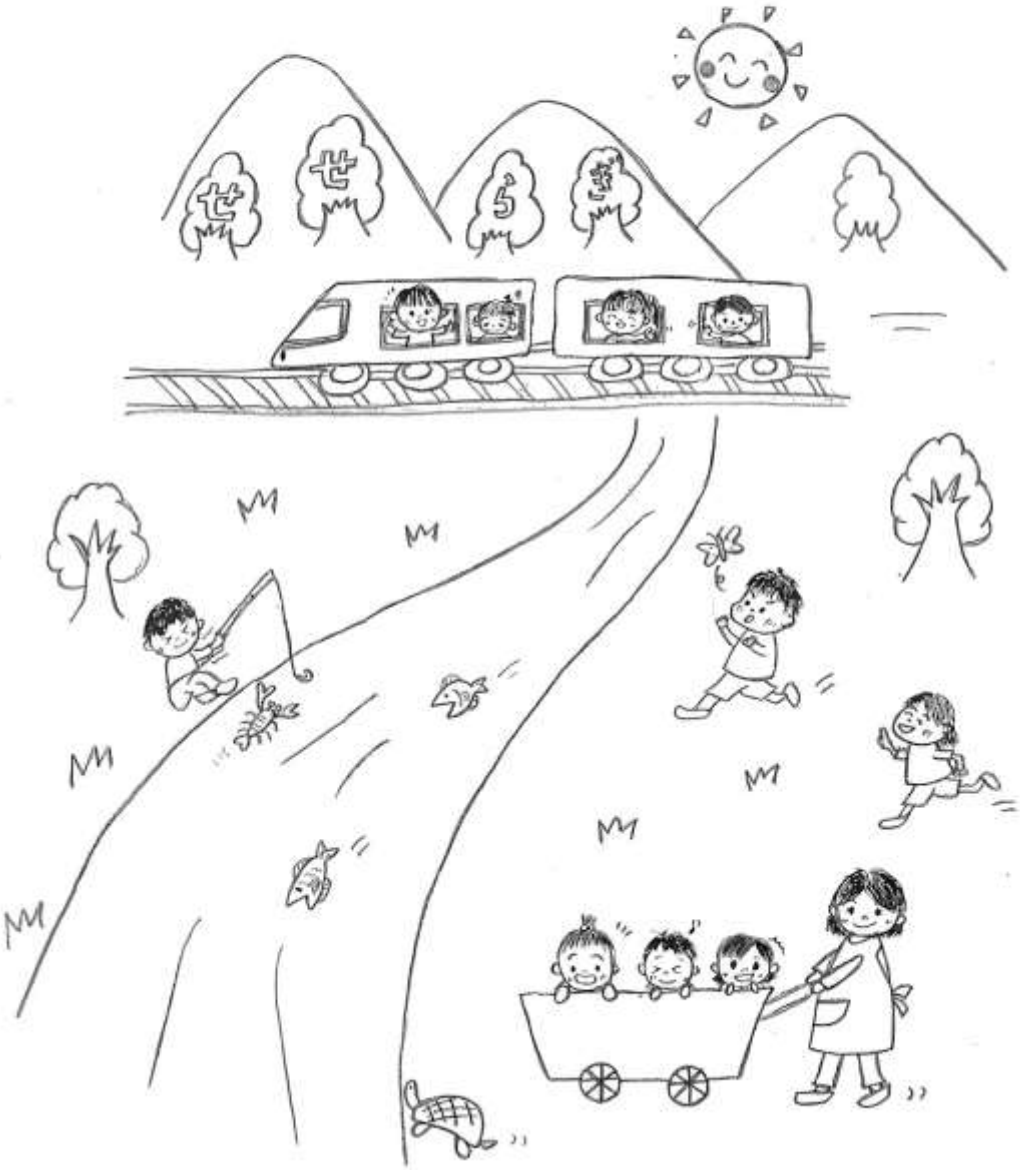
令和５・６年度　幼児教育研究

みんなでつくろう ほっと安心 笑顔いっぱいのこども園

～　自分も大事　みんなも大事　～

≪１年次　研究報告≫



八尾市立南山本せせらぎこども園　　令和６年３月

研究テーマ

みんなでつくろう　ほっと安心　笑顔いっぱいのこども園

～　自分も大事　みんなも大事　～

八尾市立南山本せせらぎこども園

所在地：八尾市山本町南３－１－３９
電　話：０７２－９９８－９４３１
園　長：藤井　裕美

◆クラス編成◆

〈乳児クラス〉

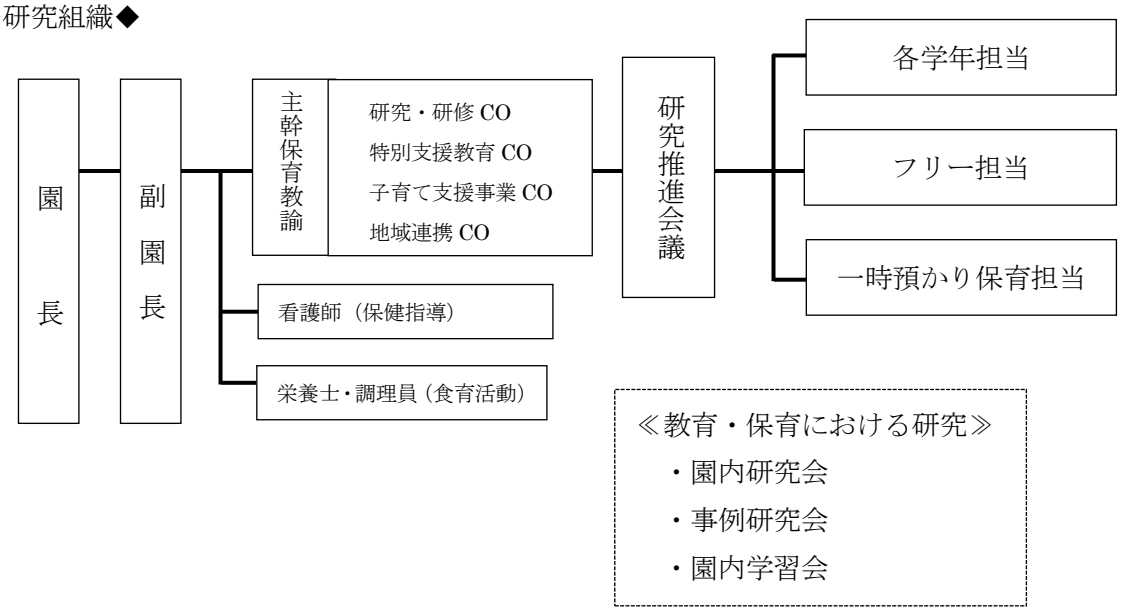
０ 歳 児	１　歳　児		２　歳　児		合　計
ひよこ組	うさぎ組	りす組	きりん組	ぞう組	
９名	１２名	１２名	１５名	１５名	６３名

〈幼児クラス〉

３　歳　児			４　歳　児		５　歳　児		合　計
りんご組	もも組	いちご組	さくら組	ひまわり組	つき組	ほし組	
１９名	１９名	１９名	２９名	２９名	３０名	３０名	１７５名

計：　２３８ 名

◆研究組織◆



１. 研究テーマについて

（１）園の実態とそこから見える課題

昨年度までの研究では、こども園が子ども・保護者・保育者にとって“安心して過ごせる場所”であることをめざし環境を整えながら、教育・保育を進めてきた。子どものありのままの姿を受けとめ、その子どもらしさを認めたり、「それいいね！」と子どもと一緒におもしろがれる保育者であることを意識したりして、一人ひとりに丁寧にかかわることもめざしてきた。このように保育者が肯定的な捉えをすることで、子どもは色々な活動において自信がつき、より積極的に自己表出をしようとするようになってきた。

しかし、これまで普通にできていた異年齢交流や活動、行事など、コロナ禍の影響で距離をとらざるをえない状況が続いた。そして、子どもたちは、人に見られたり色々な人とかかわったりする経験が少なくなった。また、少しずつ自分の思いを表出するようになってきたものの、初めてのことに慎重でためらったり諦めてしまったりするなど、自己肯定感の低さから相手の思いまでなかなか受け入れられないという姿も見られた。

保育者は、保育内容や活動を新たに考え直すことに、戸惑いや迷いがあった。「この活動で子どもたちが楽しめるのか」「これまでの保育で大事にしてきたことを違う方法でアプローチし、ねらいを達成できるのか」など、経験がないことに対しての不安な様子も見られた。また、多様な業務に加え、打ち合わせや情報共有をするための時間の捻出や工夫をどうしていくかも課題になった。

保護者からは、子育てへの不安や戸惑い、育てにくさを感じるなどの相談もあり、様々な家庭環境の背景を考慮しながら、個に応じた保護者支援を行っているが、難しさを感じている。

子どもや保護者、一人ひとりを尊重しかかわっていくには、保育者自身の人権意識が大切であると考える。人権について職員間で共有し、自分の保育を振り返り再確認する必要性も感じている。

⇩

◎課題解決に向けての方向性

① 子どもの自尊心、自己肯定感を高めるために保育者のかかわりにおいて大切にするべきこと
② 友だちを大切にする思いやりの心や尊重する気持ちを育める保育実践
③ 人の優しさ・温かさを感じられ、子どもたちの経験がより豊かになるように、異年齢間、地域の人とのかかわりを広げていく
④ 悩みや思いに寄り添った保護者支援
⑤ 職員間の連携、語り合う場の設定と時間の確保など、同僚性を高めていくための工夫

これらを意識しながら、研究を進めていくことにした。

＜研究テーマ＞
みんなでつくろう　ほっと安心　笑顔いっぱいのこども園
～自分も大事　みんなも大事～

（２）研究テーマの考え方

どのような生活・遊び環境、かかわりが子どもの安心や笑顔につながっていくのか、どうすることで自分も大事に、みんなも大事にできるような優しい気持ち、あたたかいかかわりのできる仲間づくりをめざしていけるのかを研究の中で明らかにしていきたいと考えている。

これまで積み重ねてきた『肯定的な見取り』『あたたかいかかわり』『生活や遊び環境の工夫』をキーワードとして、愛されていると感じ、ほっとする気持ちになり、やりたいことが実現できるようにすることが、子どもの自己肯定感を高める要因であると考える。子どもが安心できるようなかかわりを意識し、キーワードに沿った考え方を職員間で語り合ったり、共有したりすることで、保育者一人ひとりの人権意識や同僚性の高まりにもつなげていきたい。

子どもを中心にそこにかかわる人たち全てを“みんな”と捉え、みんなでほっと安心し、様々な活動が笑顔につながっていくこども園をつくっていくことをめざし、研究テーマを上記のように設定した。

２．研究方法について

【園内研究会】（公開保育）

保育を公開し、討議の柱に迫るために、子どもの姿や保育者の援助、環境構成などについて討議を行う。参加者と考え合うことで互いの保育の質の向上につなげるようにする。

【事例研究会】

保育の一場面の写真から、子どもの内面に迫り、思いを理解したり、遊びの過程を探ったりして、様々な視点からの学びを深める。子どもの育ってきた姿を肯定的に捉えることで、明日からの保育につなげていけるようにする。

【研究推進会議】

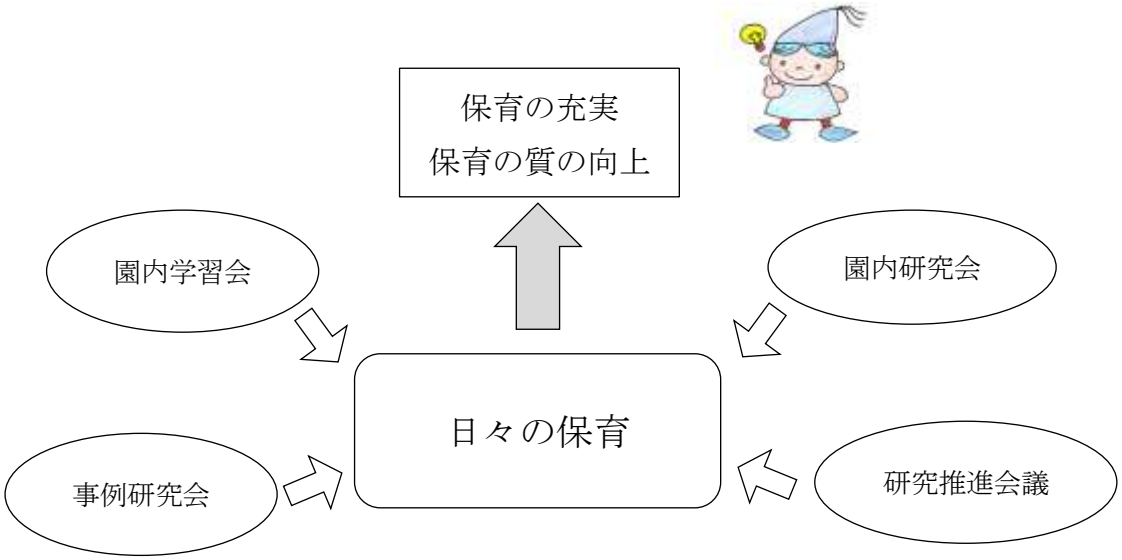
研究を進めるにあたり、各学年代表が参加し課題やテーマについて意見をもち寄って話し合ったり、思いを共有したりすることで、日々の保育実践や学習会に活かしていく。

【園内学習会】

テーマに沿った学習会で、交流したり共有したりして、同僚性を高めることにつなげる。

【事前打ち合わせ・保育指導案検討会議】

公開保育をするにあたり、どのような思いや流れで保育を展開させていくか、また担任の思いや願い、クラスの課題について、担任と園長、副園長、主幹保育教諭で、事前に打ち合わせをする。その後、担任が保育指導案を作成し、当日園内研究会に参加する保育者も含めて、保育指導案や討議の柱などについて検討する。



３．研究実績一覧

（１）園内研究会

	日付	学年	討議の柱
1	６/９	４歳児	自分も大事 みんなも大事と思えるための保育者の援助と環境づくりとは
2	７/６	３歳児	一人ひとりの思いが大切にされている保育者の援助と環境づくりとは
3	７/25	０歳児	一人ひとりの思いや発達に応じた保育者の援助と環境構成とは
4	８/１	１歳児	一人ひとりが安心できる保育者の援助と環境構成とは
5	８/24	２歳児	一人ひとりが思う存分楽しめる保育者の援助と環境構成とは
6	11/21	５歳児	遊び込むとは　～ほっと安心　笑顔いっぱいの姿から～

（２）事例研究会

	日付	学年	討議の柱
1	５/19	５歳児（非公開）	ほっと安心　笑顔いっぱいになる環境とは
2	７/27	２歳児・４歳児	
3	11/29	１歳児・３歳児	
4	１/26	０歳児（非公開）	

（３）研究推進会議

	日付	内　　容
1	４/13	研究と年間計画について共有しよう
2	５/11	事例研究会、学習会の進め方について知ろう
3	６/22	園内研究会・事例研究会、学習会の振り返りと学んだこと
4	７/21	研究冊子づくりに向けて
5	９/14	園内研究会、事例研究会、学習会で学んだことをどう保育に活かしているか
6	10/12	各学年の研究冊子づくりの進捗状況
7	12/14	園内研究会、事例研究会の振り返りと学んだこと
8	２/21	研究の振り返りについて

（４）園内学習会

	日付	内　　容
1	４/28	研究とは？思いを共有しよう　～学年で大切にしたいこと～
2	５/19	ほっとな保育者のかかわり方を考えよう　～チェックリストの事例から～
3	６/27	保育サポート児への支援の方法について考えてみよう
4	８/１	①地域とのかかわりを深めるために　～地域連携の視点から～ ②連絡帳・クラスノートについて　～子育て支援の視点から～
5	10/27	ポートフォリオをつくろう 冊子づくりに向けて、大切なポイントを共有しよう
6	11/14、15	中間報告のパワーポイントを見て、思いを共有しよう
7	12/20	研究がより豊かになるために話し合おう　～こんなときどうしてる？～
8	３/８	１年間の研究を通して学んだことと次年度に向けて

４．研究内容について

（１）園内研究会について

０歳児

✿保育の中で大切にしたいこと

・保育者との信頼関係・愛着・情緒の安定を基盤とした安心できるかかわりや環境をつくる。

・保護者と連携し、一人ひとりの生活リズムに合わせて過ごしていけるようにする。そして、園が第２の家庭となるよう、温かい雰囲気を大切にする。

・一人ひとりを尊重することで子どもの心身の成長発達につながり、楽しい・嬉しい・やってみようという気持ちにする。それがまた、成長や発達につながるという『永遠のループ』を大切にし、子どもの姿を担任間で共有する。

✿７月　ひよこ組　園内研究会

討議の柱『一人ひとりの思いや発達に応じた保育者の援助と環境構成とは』

＜分かったこと＞

・愛のあるかかわりと保育者との信頼関係、そして子どもの思いに寄り添った環境づくりをすることが大切である。愛着や信頼関係を基盤に、友だちへの興味もでてきている。

・子どもにとって安心できる環境があり、興味・関心を読み取った保育者の援助が笑顔につながっていた。

・子どものペースで受けとめてもらえる保育者の応答的なかかわりが、子どもの安心や信頼につながっている。

・一人ひとりの発達や興味に合わせた物的環境があることで、自ら遊び満足する姿が見られる。

＜指導助言＞

・いつも笑顔で寄り添うことで、一人ひとりと情緒的な絆を結ぶことになる。保育者と嬉しい・楽しいの共有をたくさん経験することで、保育者の存在が安全基地になり自ら遊びに向かうことができる。

・安心できる保育者が側にいてくれることで“やってみよう”という思いが芽生える。また、保育者がモデルとなり一緒に楽しく遊ぶことも大事である。

・子どもの“できた”という喜びに共感し、保育者間でも共有することが連携の一つとしてとても大事になる。

・一人ひとりの発達段階が異なるので、子どもと一緒に遊びながら全体に目を向ける。安全の保障が安心にもつながる。

・くぐる、よじ登る、つかまり立ちなど全身を使う遊びが運動機能の発達につながる。

・豊かな感性や感覚を育むためには、自由に探索して好きなものにかかわり、様々な経験ができることが大事である。

・経験の中で子どもの行動や表情から心の動きを見取り、共感する丁寧なかかわり、一人ひとりの興味・関心に合った遊びの環境の工夫が必要になる。

・身近な保育者に表情や視線、指差し、身振り手振りで伝えようとしている子どもの思いを汲み取り受けとめて、保育者が言葉や笑顔でタイミングよく返していくことが大事である。
・保育者がゆっくりと優しく分かりやすい表現をすることで、子どもの言葉の獲得にもつながる。

✿園内研究会後の保育と子どもたちの姿

＊発達に合わせて扱いやすい玩具を用意した。

①【マラカス】

子どもの姿	見取り	興味・関心や発達に合わせた環境・援助	子どもの育ち
音楽に合わせて体を揺らしたり手をたたいたりする。	歌・手遊びやふれあい遊びが好き。	色々な素材かつ大きさの異なる音が鳴る玩具をつくった。 ・ビーズ、米、鈴など	音や見た目、持ちやすさなど違いが分かり、好みの玩具を自分で選んで遊ぶ。

②【テープ芯を回すおもちゃ！】

子どもの姿	見取り	興味・関心や発達に合わせた環境・援助	子どもの育ち
換気扇やタイヤなど回るものをよく見る。	回るもの、転がるものに興味がある。	手や指先の動きを必要とする回す玩具をつくった。 ・人数分の玩具 ・落ち着いて遊べるスペース	自分自身で操作できることを喜び、繰り返し楽しむ。 つまむ、引き出す、穴に入れるなど手や指先を使って、色々な玩具を楽しむ。

＜まとめ・今後について＞

子どもの遊んでいる姿を見取り、発達に応じた意図的な遊びの環境をつくったことで、一人ひとりが好きな遊びに集中して遊ぶようになった。また、“自分でできたという”成功体験の積み重ねが、さらに遊ぶ意欲へとつながっていった。一人ひとりとの愛着関係の中、安心感で満たされることと興味に合った環境があることで自ら遊びに向かえるようになるということを学んだ。また、表情や視線、指差し、身振り手振りから子どもの思いや心の動きを受けとめて、その瞬間を逃さずにタイミングよく共感したり応答したりしていくことが大切である。これからもクラスで連携しながら子どもたちの成長をたくさん喜び合い、一人ひとりに寄り添った丁寧な保育を心がけ、笑顔あふれるあたたかな保育をしていきたい。

１歳児

✿保育の中で大切にしたいこと

・自分でしたいことをとことんする。

・思う存分に自分の思いを表現する。

・一人ひとりの気持ちに寄り添い丁寧なかかわりをする。

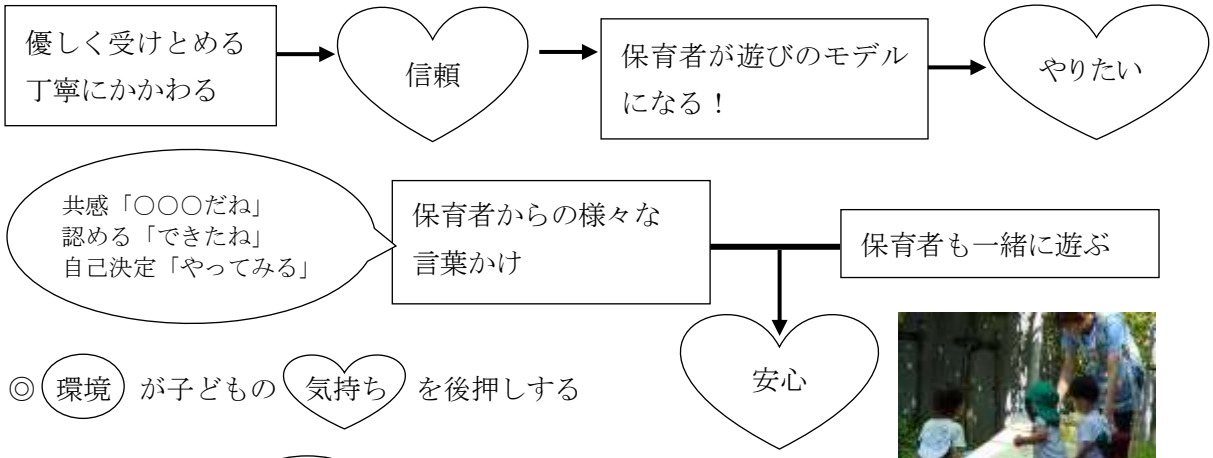
→上記を踏まえ、心も身体も満たされることで友だちにも目も向けられると感じ、信頼関係を築き安心できる場所、時間、人をつくることを心がけてきた。

✿８月　うさぎ組　園内研究会

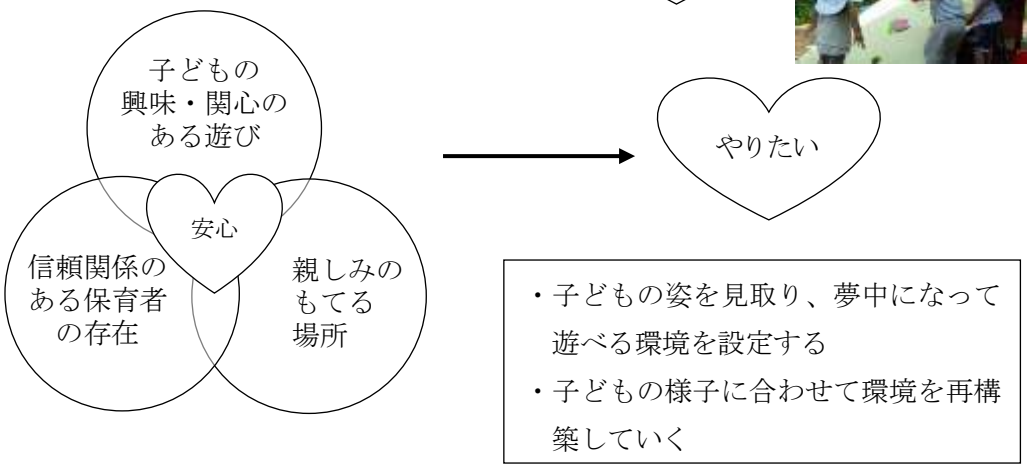
討議の柱『一人ひとりが安心できる保育者の援助と環境構成とは』

＜分かったこと＞

◎保育者の援助が子どもの気持ちにつながる



◎環境が子どもの気持ちを後押しする



＜指導助言＞

・『年齢・月齢』『季節』だけに捉われることなく、クラスの実態と保育者の意図を合わせ、計画を明確にして、よりよい保育につなげていく。

・保育の方向性を決定していく為に、子どもを理解し、楽しさや興味、要求などを見取る。

→子どもの反応を見るような言葉かけや一緒に遊んだり見守ったりと臨機応変に対応しながら、内面を読み取っていく。

・１歳児ならではの『同じことを繰り返すことを楽しんでいる姿』から、子どもたちにとって扱いやすい高さ、大きさの環境の工夫が必要である。

✿園内研究会後の保育と子どもたちの姿

・子どもが何を楽しんでいるのかを見取り、その様子を保育者間で伝え合っている。
・うまく言葉にできない思いを代弁したり、子どもの安心につながるような共感・認める言葉かけをしたりするなど声かけを一つひとつ大切にしている。
・友だちの姿に興味をもったり、かかわったりするきっかけや遊びが広がるような声かけを積極的に行っている。
・子ども目線に立って遊ぶ位置や場所を調節し、日々の子どもたちの姿に合わせ、環境を再び整えている。

保育者の見取りとして

おもちゃ箱の中に入ることが好きな子どもたち。何か楽しい遊びに変えられないかな？

段ボールで箱をつくってみると・・・

子どもたちから色々な遊びの発展が！

積んでいくことを楽しんでいる

中に入ることを楽しんでいる。「ブッブー」と車に見立てる子どももでてきた
ハンドルをつくると歌に合わせてバスごっこが始まった

赤ちゃん人形を乗せたり、ベッドやお風呂、食事スペースなどにしたりして、ままごと遊びにも活用していた

段ボールを並べて一本橋に挑戦！
またいで座り、楽しむ子どももいた

歌に合わせて太鼓の演奏が始まる
叩くものによって違う音が鳴ることに気づき楽しむ姿もあった

坂をつくってボールを転がし、下に置いた段ボールに入れることを楽しんでいる

＜まとめ・今後について＞

子どもたちの姿からどんなことにでも使えるシンプルなものを用意することで、色々な遊びへと広がった。より楽しめるように保育者がこれからもよいモデルになって楽しんでいきたい。

２歳児

✿保育の中で大切にしたいこと

・子どものありのままの姿をまずは受けとめ、共感する。
・できたことを逃さず、全力で褒める。
・子どもを尊重する。（子どもが自由に選べる権利を！）

✿８月　ぞう組　園内研究会

討議の柱『一人ひとりが思う存分楽しめる保育者の援助と環境構成とは』

＜分かったこと＞

・安心感のある雰囲気の中で一人ひとりの思いに寄り添い共感する。
・保育者も一緒に楽しみ、子どもの思いを言葉に出して伝えていく。
・子どもの興味・関心を保育者で共有し、環境を工夫する。
・やりたいことを自分で選んで遊ぶことができる環境を整える。
・一人ひとりの発達に応じた適切な教材研究が大切である。
・素材、玩具、道具をタイミングよく出す。

⇩

・遊びの発見につながり、やってみたい気持ちを育てる。
・じっくり遊ぶ、工夫して遊ぶ、夢中になって遊ぶ、を繰り返していくうちに遊びが発展していく。
・幼児期につながる育ちの土台づくりを乳児期にしていく。

＜指導助言＞

保育者は、育ちや学びを考えて色々準備しているけれど、それって本当に子どもがやりたいこと？

・保育者は始めは、仲介者として子どもと子どもをつないでいく。遊びの経験が深まっていくと保育者の介入は減っていく。
・保育者がいないと成立しない遊びは、発達に合っていない可能性がある。子どもの発達をよく理解することが大切になる。
・やりとりが少ない場面での子どもの気づきに対して、保育者が代弁することで言葉にならない思いを内面から理解する。
・子どもを信頼する“まなざし”をもつ。

⇩

子どもの内面を理解し、大切にされていると感じられるかかわりをすることで、安心につながる。その安心の中で自己を発揮し学びに向かう姿勢がうまれる。

✿園内研究会後の保育と子どもたちの姿

遊びや玩具を出すタイミング
もっとやってみたいと思えるように、子どもの様子を見ながらタイミングを図る。

保育者間の連携
子どもの姿から、内面を見取ったり、保育者の援助や環境構成を一緒に考えたりして、状況に応じたかかわり方を共有する。

やってみたいという思いを実現できる援助
２歳児ならではの“自分で！”という思いに寄り添うことで、自分でできた達成感につなげる。

遊びを継続的に楽しめること
明日も同じ遊びができるという安心感やワクワク感につなげる。

～その後の保育～

園庭にバッタやダンゴムシがたくさん見られるようになり、虫探しを楽しむ子どもたち。バッタを捕まえて緑色の虫かごに入れたが、「僕が見る！」「私が！」と捕まえたバッタの取り合いからトラブルになることも多かった。

色が同化して見えにくいのかな？
虫かごの数が足りないかな？

～そこで…～

捕まえた虫がよく見えるように、ペットボトルを使って自分専用の虫かごを用意した。

☆自分で捕まえて入れやすい工夫
　＝やってみたいという思いを実現できる援助

☆園庭に出る時に持って行けるようなところに準備する
　＝遊びや玩具を出すタイミング

☆虫だけでなく葉や木の実も集められるという遊びの提案
　＝遊びを継続的に楽しめること

☆子どもが楽しむ姿を伝え合う
　＝保育者間の連携

自分のものと分かるマーク

扱いやすいサイズ

透明で観察しやすい

～子どもの姿の変化～

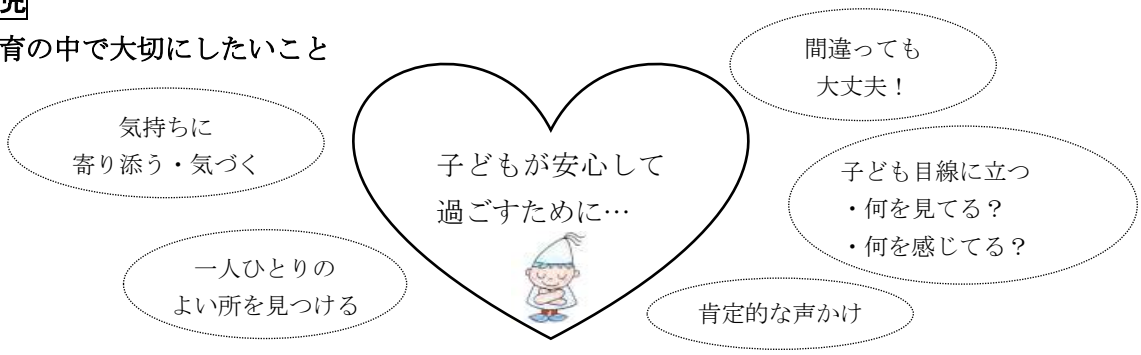
バッタを捕まえ、自分専用の虫かごに入れて観察する子ども。じーっと見て、満足そうに持ち歩いていた。なかなか捕まえることができない友だちがいると、自分の虫かごに入れていたバッタを、友だちの虫かごに入れてあげる姿も見られるようになった。

＜まとめ・今後について＞

保育者が子どもの興味を捉えて遊びを展開することで子どもが『楽しい』を積み重ね、より安心感をもって存分に遊ぶことができる。子どもたちの安心感や心の余裕が友だちへの興味や思いやりの気持ちにつながっている。保育者は子どもの姿や内面を理解し、どうすればもっと遊びを楽しめるかが明確になった。これからもクラス内で共有・検討し、保育者自身も『やってみよう』の気持ちで、実践していきたい。

３歳児

✿保育の中で大切にしたいこと



『保育の中で大切にしたいこと』を実践し、担任間で話し合い、援助の仕方やかかわり方など「困ったな」「どうしたらよいだろう」という悩みが出てきた。

⬇

・一人ひとりの遊びのペースに合わせることの難しさを感じる。
・クラスの子ども全員が満足する遊び方や遊びを保障するための援助や環境構成とは何だろう？

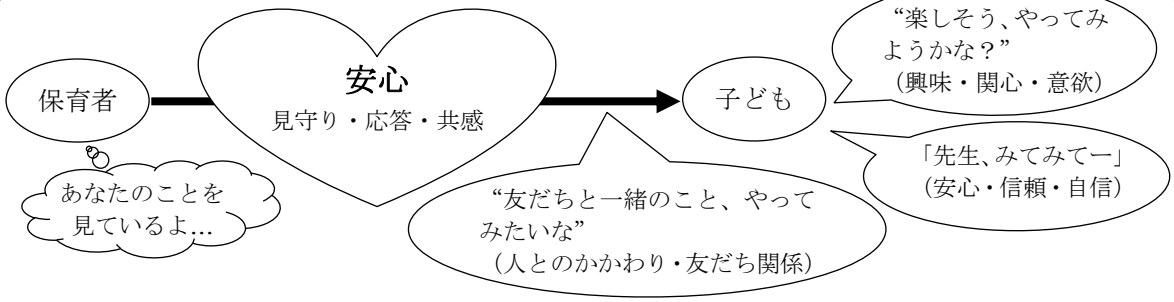
✿７月　いちご組・りんご組　園内研究会

討議の柱『一人ひとりの思いが大切にされている保育者の援助と環境づくりとは』

＜分かったこと＞

・子どものやりたいことを受けとめ、選択できるような提案をして子ども同士をつなぐ。
・その場を離れる時には「ちゃんと見ているよ」と声をかけることで、保育者から離れても遊べる安心感につながっている。
・扱いやすい道具を使ったり、少し難しい道具や形の違うものなど試すことを経験したりすることが、４歳児での遊びにつながっていく。
・子どもたち一人ひとりを大切にするためには、保育者の丁寧な応答や思いに寄り添ったかかわりが重要である。

＜指導助言＞



☆３歳児は、まだまだ保育者が遊びのモデルとなって遊んだり遊びに誘ったりして働きかけていくことが必要である。

☆保育者が安心感を与えられるようなかかわりをすることで、離れて遊んだり、したい遊びを選んで遊んだりする姿につながっていく。

✿園内研究会後の保育と子どもたちの姿

保育者の援助	環境構成
・保育者と満足いくまで一緒に遊ぶ経験をし、安心して園生活が送れるようにする。 ・一日のどこかでかかわりをもち、一人ひとりの興味や好きなものを知り、遊ぶきっかけをつくる。 ・少しずつ周りの友だちにも目を向けられるようにする。 ・保育者が仲立ちとなり、一緒に遊びながらルールの確認を行い集団で遊ぶ楽しさや充実感を味わえるようにする。また、保育者が子ども同士をつなげる役割となる。 ・遊ぶ姿を見ながら、使っていない玩具を整理していく。	・好きな玩具や興味のある様々な遊びを用意する。 ・興味をもった遊びがすぐにできるよう、子どもたちが、一人でも扱いやすい素材や玩具を用意する。 ・生活の流れを絵カードで表示し、絵カードを見ながら自分でできるようにする。 ・イメージしたことが実現できるような素材や材料を見える場所に置く。 ・自分で分別し、片付けやすい環境を整える。

⬇

～子どもの姿～
・一人ひとりしたい遊びが見つかり、楽しめるようになった。
・したい遊びを通して友だちとのかかわりが広がり、友だちと遊ぶ楽しさが味わえるようになってきている。
・簡単なルールのある集団遊びを楽しむようになってきている。

＜まとめ・今後について＞
　一人ひとりの思いに寄り添い、個に応じた配慮や援助のタイミングを大切にしていく。また、子どもたちが何を求めているのか、何を伝えたいか、何をしたいか、それに必要な配慮や援助は何なのかを、日々の子どもたちとのかかわりや姿から見取っていきたい。
　“やってみたい”“使ってみたい”と思えるように、素材や材料を手に取りやすい場所におくことで、使い方を知り、自分でできたという経験につなげていきたい。

４歳児

✿保育の中で大切にしたいこと

・子どもたちのありのままの姿を受けとめ認める。

・友だちのありのままの姿を伝える。

・愛情をもって子どもに接する。

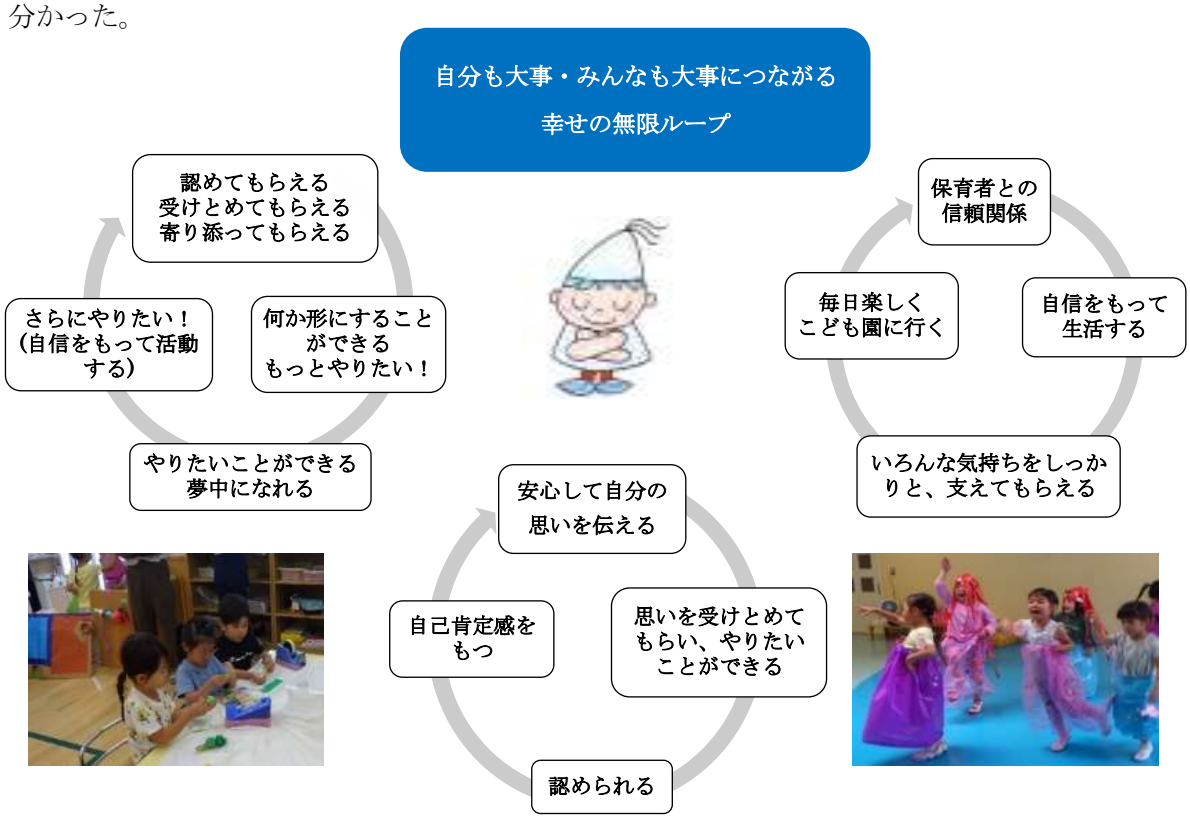
→上記を踏まえ、保育者間で共通理解し、子どもたちが自信をもって遊んだり生活を送ったりできるよう日々の保育に取り組むことにした。

✿６月　さくら組　園内研究会

討議の柱『自分も大事　みんなも大事と思えるための保育者の援助と環境づくりとは』

＜分かったこと＞

信頼関係の構築・一人ひとりを受けとめ、認める・試行錯誤の機会をつくる・遊びを盛り上げ支える保育者の援助・環境が大切である。また、保育の中で、以下のような『子どもの心情』が分かった。



＜指導助言＞

子どもたちのありのままの姿を大切にし、理解する → 子どもたち一人ひとりの思いや気持ちを受けとめる → 主体的に遊べる環境構成や保育者のかかわりにつなげる

↓

子どもを理解するには、保育者の専門知識をもとにして、『子どもが今どうしたいのかを見取る力を育てていくこと』『子ども一人ひとりの発達を知ること』が大切である。

✿園内研究会後の保育と子どもたちの姿

南山本せせらぎこども園は近鉄電車の沿線に近く、『しまかぜ』や『ひのとり』など珍しい電車もよく見かけることができる。そのため、電車に興味をもっている子どもが多く、イメージの共有がしやすいことから、電車の遊びが盛り上がった。

子どもの姿や思いに寄り添った『環境構成』

安心・笑顔な『子どもの姿』

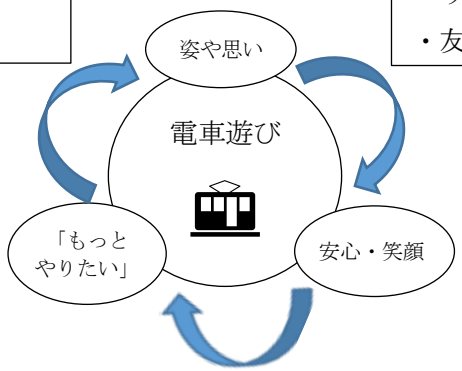
電車に乗れたよ！

踏切あります

電車走っていいですか？

子どもの思いが実現できるような、様々な大きさや硬さの段ボールを準備する

・自分で組み替えたり考えたりできる素材
・友だちとつながれる空間



鉄橋をはしりまーす！

みんなで押して走らせよう！

友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じられる環境

安全運転で出発しますね！

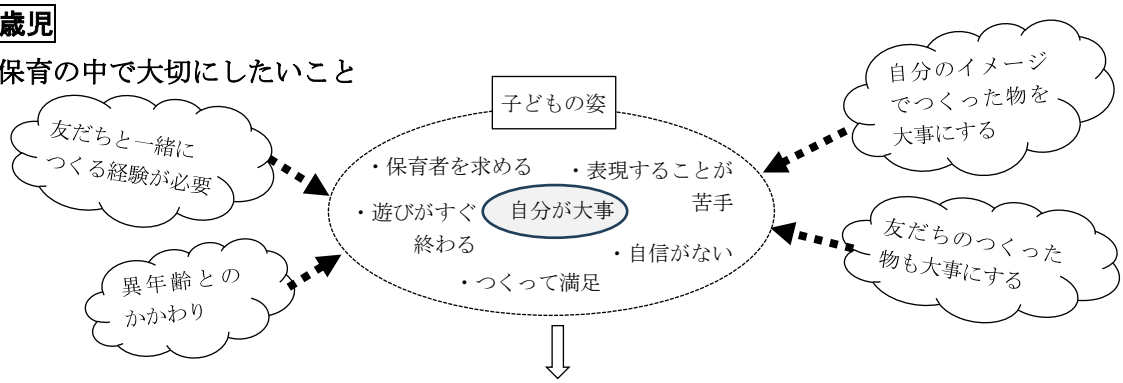
４人乗りでーす

＜まとめ・今後について＞

遊びが広がったり停滞したり、また再開しながら、より楽しめるように工夫する姿が見られるようになった。園内研究会で共有した『幸せの無限ループ』を大切にし、選択肢を準備することで、遊びの幅が広がっていくような環境を整えていきたい。安心や笑顔がいっぱいになるようなかかわりを大切にしていくことで、一人ひとりの自信にもつなげていきたい。また、遊びの中にある学びを理解しながら、保育実践していきたい。

５歳児

✿保育の中で大切にしたいこと



⇩

- 一人ひとりの実態に合わせたかかわりをする。
- 何かが起こった時（よい時も困った時も）みんなで話し合いをする場をつくり、共有する。
- 大人がかかわるところと、子ども同士に委ねるところを見極める力を保育者がつけ、共有する。
- 子どもに自信がつくような遊びを進めていく。
- 学年の保育者同士で情報交換をする。

子どもも保育者も楽しく!!

上記を踏まえ、子どもたち一人ひとりの遊びの内面を見取り、子どもたちが“心地よく”遊べるように、環境構成や援助を整えていくことにした。

物を大切にするためのしかけや環境構成

＜before＞

※動画配信のしかけ

つくった物や玩具を大切にしよう

誰かが片づけると思っている？

＜after＞

絵本を綺麗に並べよ！

一人ひとりの意識が変わったね

自分のつくった物だけでなく、友だちの物も大事にするようになった。また、友だちのつくった物にも興味をもち真似してつくったり、つくった物で遊んだりできるようになった。

遊び場の保障

＜保育室＞

落ち着く遊び場

また、明日続きができるように置いておこう！

どうやってつくったの？

保育室と遊戯室を使い、遊びの続きがすぐにできる場を整えた。すると、友だちにつくり方をきいたり、一緒につくったりして少しずつ主体性が見られるようになってきたが、次のような疑問が出てきた。

そこに遊びがあるから遊んでいたの？

目的をもって遊んでいたのかな？

✿11 月　つき組・ほし組　園内研究会（保育と講演）

討議の柱「遊び込むとは　～ほっと安心　笑顔いっぱいの姿から～」

＜分かったこと＞

遊び込む姿につながる保育者の援助と環境

ロッカーも空間づくりのアイテムになる

集中できる場づくり

イメージしたものがつくれる

遊びごとの素材の準備空間の保障

準備～片付け自分でできる環境

子どもが、気づくまで待つ保育者

困ったことがあればきいてくれる保育者

少人数で話し合う時間

振り返りについて
・もち方の工夫
・遊び内容の共有
・明日への期待

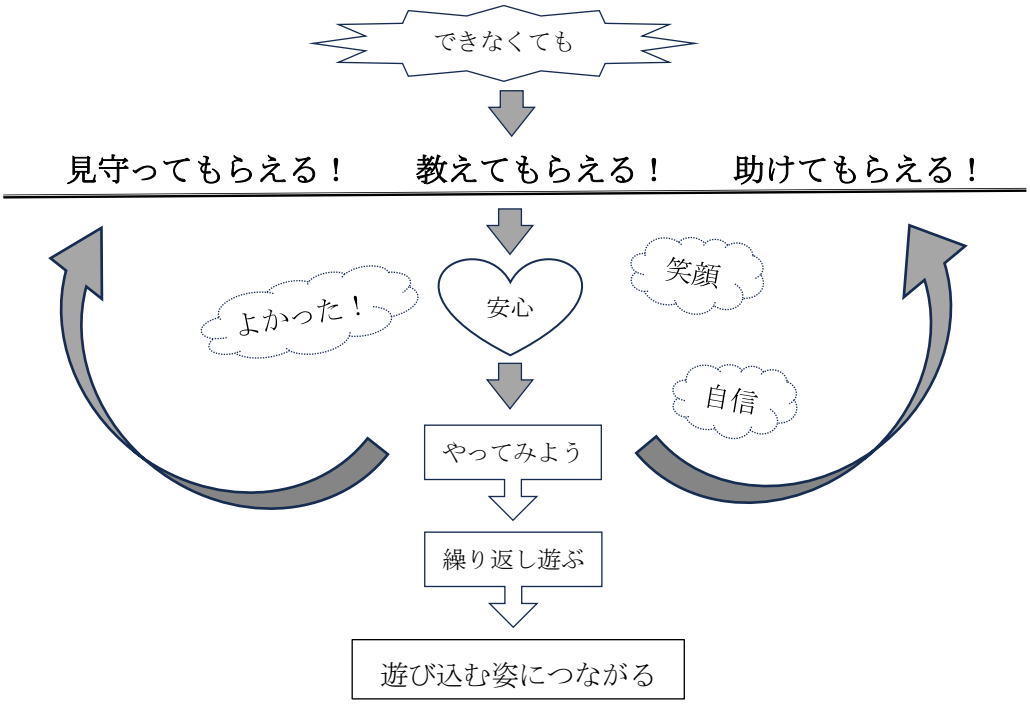
＜指導助言＞

『遊び込むとは？自信をもって遊ぶ姿がありますか？』

◎今日の遊びは・・・

いつもの場所
いつもの保育者 ⇒ 安心 ⇒ 自信 笑顔 ⇒ 大人が、見てくれることを楽しんでいた。

◎“遊び込む”前に必要なことは・・・



＜まとめ・今後について＞

子どもの実態や課題をその都度捉え、環境構成を見直すことで子どもたちが自分の遊びに自信をもち、集中して遊ぶ姿につながった。日々遊びの準備に追われたり、気になる子どもに目がいったりしてしまうが、全体を見ながら気持ちに余裕をもち、子どもにとって≪心地よい場≫になるような環境構成をしていきたい。また、担任間で日々の出来事を伝え合い、連携を取りながら、子どもも保育者も楽しめる保育を進めていきたい。

（２）事例研究会について

事例提案者がエピソード記録シートを作成し事前に参加者がシートを読み参加する。討議の柱を『ほっと安心 笑顔いっぱいになる環境とは』とし、【ほっと安心なポイント】【笑顔になったポイント】を出し合い、【事例を通して分かったこと】を討議した。

７月事例研究会

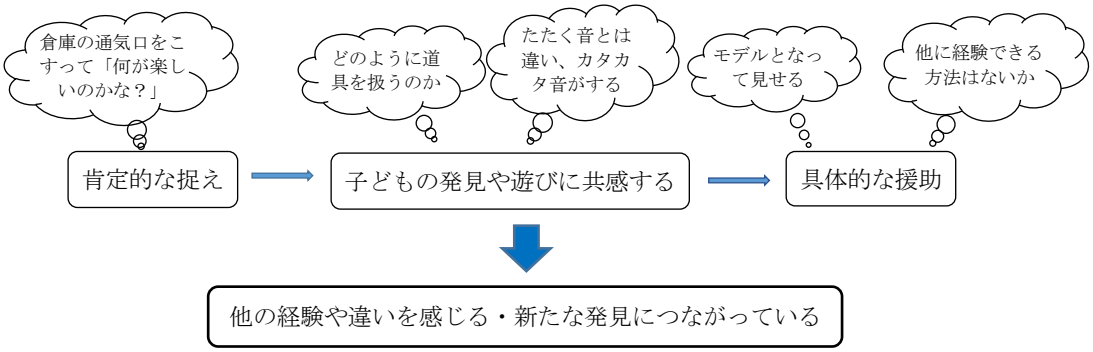
＊２歳児　『音って楽しいね！』

【事例概要】友だちに関心はあるもののかかわって遊ぶ姿が少なく、保育者にかまって欲しくて保育室の外へ出て行ってしまったり、興味はもつがすぐに遊びを転々としてしまったりする姿などが見られていた。また、体操や歌うことが好きな子どもが多く、朝の会や遊びの中で、音楽が流れると楽しんで表現する姿がある。音をきっかけに始まった遊びから、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じ、かかわりができてきている。

【事例を通して分かったこと】

・「〇〇したい」に応えてもらえる経験が、保育者との信頼関係を築き、安心感につながる。
・保育者も全力で楽しみ、タイミングよく子どもの姿に寄り添う。
・身近で扱いやすいものが活用され、“振る”“叩く”など簡単な動作を楽しむことができた。
・出し入れ自由な環境であることが、自ら遊ぼうとする姿につながっている。
・子どもの姿から“何がおもしろい？”と内面を読み取り、遊び環境を工夫することで遊びや子ども同士のかかわりを広げるようにする。

【指導助言】　～見取りから手立てを考える～



＊４歳児　『長い電車つくったよ　～自分でできた～』

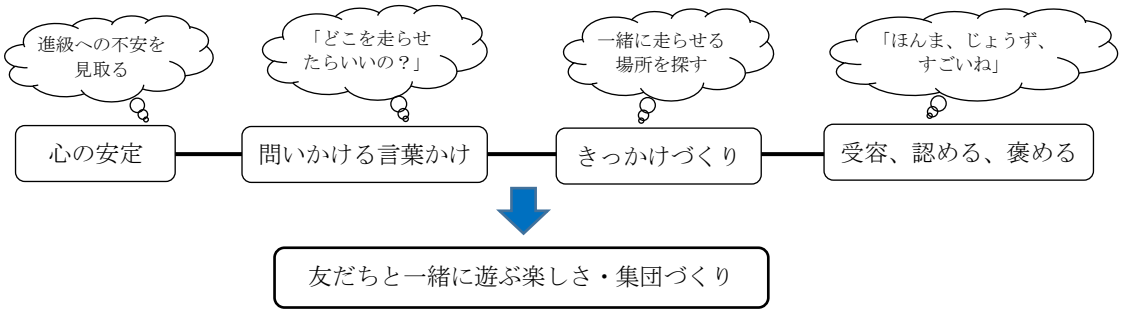
【事例概要】A児は、進級当初環境の変化に強く不安を感じていたようで、登園時に泣いたり、日中も遊びを見つけられず保育者に降園の時間を何度も確かめたりする姿が見られた。少しずつクラスでの生活にも慣れてきて、自分が興味のあるものを見たりやりたいことを保育者に言えるようになったりしていき、笑顔も増えてきた。今後は少しずつ友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしいと願っている。

【事例を通して分かったこと】

・A児が自ら電車を紙でつくったことを受けとめ、保育者も一緒に遊ぶことでA児の内面理解につなげた。
・「どうしたい？」と保育者が問いかけ、A児の「やってみたい」を実現させていくことで遊びが継続していった。

・「線路ないねん」というＡ児のつぶやきから、「どこか走らせるところはありませんか」という子ども同士の遊びと遊びをつなげていく言葉かけをしたことで“友だちと遊ぶことが楽しい”につながった。

【指導助言】　～保育者の援助のポイント～



11 月事例研究会

＊１歳児　『次はわたしが！　～先生のまねっこだいすき～』

【事例概要】少しずつ大人のしていることに興味をもち始め、保育者を真似て友だちの名前を呼んだり、人形を使って寝かしつけをしたりすることを楽しんでいる。保育者や友だちの遊ぶ姿を見ながらイメージを広げ、保育者や保護者と一緒に楽しんでいたふれあい体操を、人形を相手として楽しんでいる様子である。

【事例を通して分かったこと】

・保育者の存在は乳児にとって大きく、１対１でのかかわりから得られる信頼関係が安心感につながる。

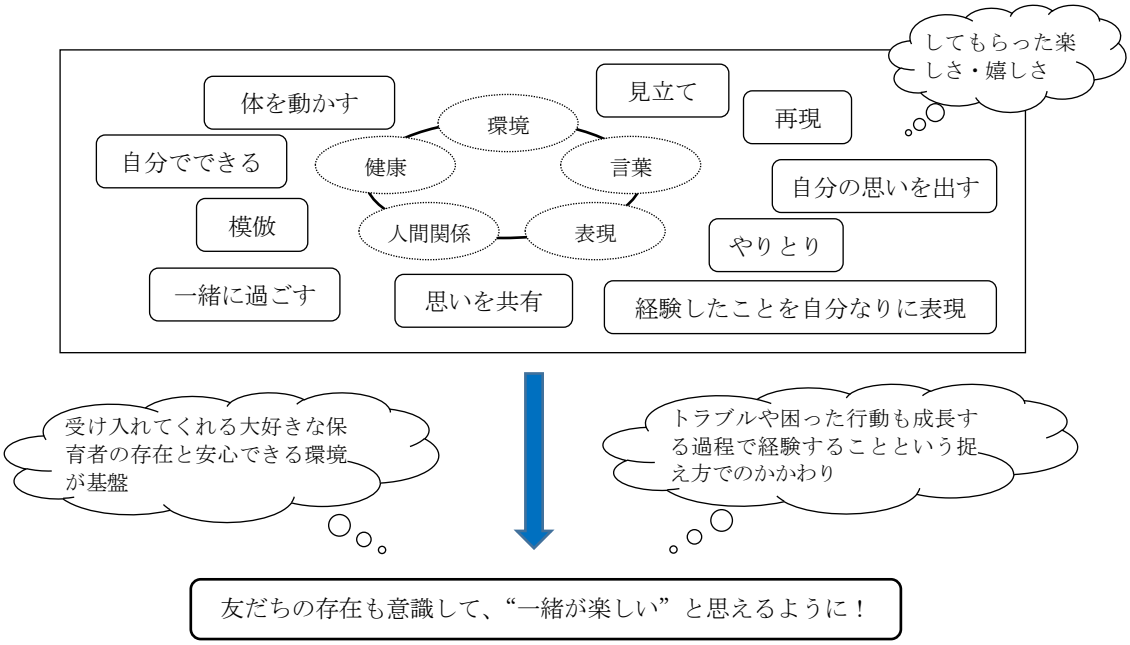
・思いを十分に受けとめてもらい、気持ちが満たされたことで、友だちへの興味につながった。

・“してもらう嬉しさ”から“してあげたい気持ち”につながった。

・子どもの姿を捉え、発達や興味を見取った環境・教材選びが大切である。

・友だちと一緒のことをする喜びが、集団で遊ぶ楽しさを感じる芽になっている。

【指導助言】　～５領域の視点からの子どもの姿の見取り、環境・援助～



＊３歳児　『恐竜の森をつくろう！　～ぼくも　わたしも！！～』

【事例概要】４月から恐竜の玩具で遊ぶことを楽しんでいる子どもたち。一人でイメージをもって遊んでいたが、最近では友だちとかかわりながらごっこ遊びを楽しむようになってきた。一方で自分の思いを押し通そうとしてトラブルになることも増えてきている。また、楽しさから気持ちが高ぶり、玩具を投げたり、落としたりする姿も見られ始めた。恐竜の玩具そのもので遊ぶことは楽しんでいるので、遊び方を変えて楽しめたらいいなとの思いから始まった遊びである。

【事例を通して分かったこと】

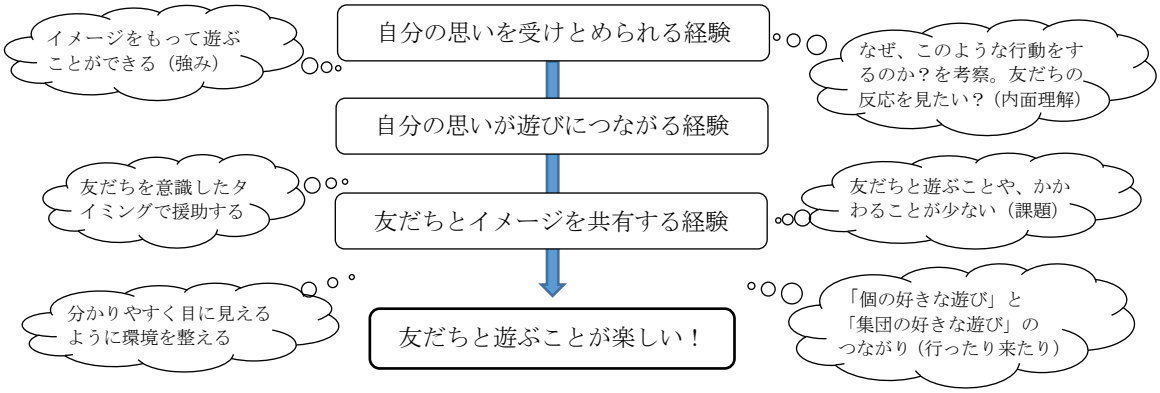
・人的環境としての保育者の存在（寄り添ってくれる　ありのままを受けとめてくれる　一緒に遊んでくれる）が安心につながる。

・楽しさのポイントを１つに絞らず、一人ひとりの遊びの楽しさが何かを考えていく。

・イメージしたことが形になり、友だちと共有して遊べたことで、A児も楽しめ、“一緒が楽しい”、“もっと遊びたい”につながった。

・様々な使い方ができる素材（新聞紙、花紙、クラフトシートなど）との出会いが、“やってみたい”意欲につながった。

【指導助言】　～子どもの強みを活かし、一人ひとりが満たされるような遊びで他児とつなぐ～

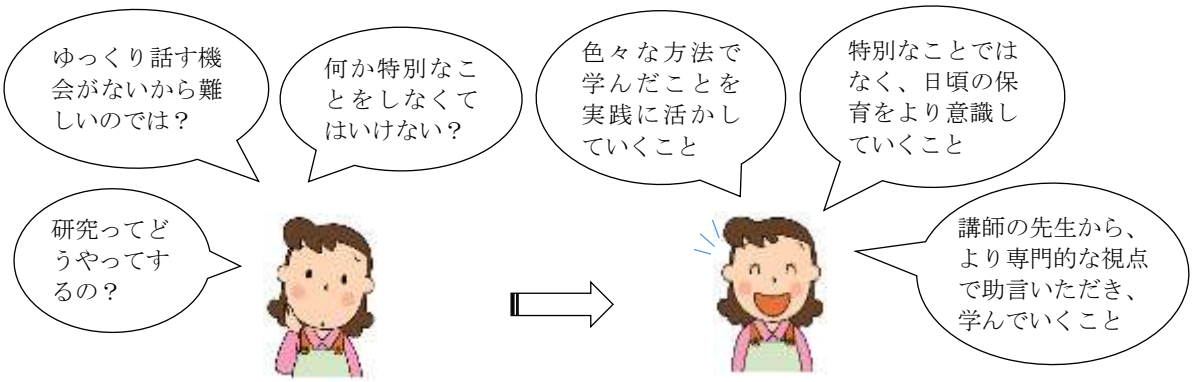


（３）園内学習会について

普段なかなか保育について話す時間がもちにくいと感じている職員が集まり、日々の保育の中で大切にしたいことや課題と思うことをグループに分かれて話し合ったり、思いを共有し合ったりして、保育実践につなげた。

◆第１回　『研究とは？思いを共有しよう　～学年で大切にしたいこと～』

これまでの研究を経験していない職員の、不安や戸惑いが強くあった。そこで、研究について共通理解することにした。教育センター所長補佐より『研究とは？』ということについて話をきいた。



「同じ方向を向いて保育を進めていこう！」と、気持ちをひとつにすることができた。研究テーマに向けて学年で話し合い、『保育の中で大切にしたいこと』を明確にし、共有した。

◆第２回　『ほっとな保育者のかかわり方を考えよう　～チェックリストの事例から～』

これまでの研究を通して、保育者は子どもの思いに寄り添いかかわることを心がけたり、肯定的な言葉かけを意識したりすることが大切だということを理解したうえで保育を進めてきた。新年度になり、新しい保育者も加わる中で、思いを共有し保育を進めていけるようにすること、また自分自身の人権意識についての気づきや再確認になることをねらいとして、今回の学習会を行った。

＜学習会の進め方・内容＞

全国保育士会の「人権擁護のためのチェックリスト」を活用し、具体的な保育での場面をもとに、「私なら…」どう見取るか、どうかかわるかなど考えを出し合うとともに、子どもへのかかわり方や言葉がけを振り返った。

＜成果＞

・多様な考え方を知ることで新たな発見があり、保育を見直す機会になった。
・“声かけや行動する前にまずは深呼吸をし、心の余裕をもつ”ことを共通認識することができた。
・子どもへのかかわり方や言葉がけを振り返り、肯定的に見取ることで子どもの自己肯定感が育まれることも確認できた。
・事例を用いて考え合うことで、保育者の人権意識の高まりにもつながった。

◆第３回　『保育サポート児への支援の方法について考えてみよう』

支援していくためには、気になる行動に気づくこと、情報を収集すること、行動を観察することから、手立てを考え実践しその手立てがどのように作用しているのか、適切であるのかを振り返るなどの積み重ねが大切である。まずは、保育者の立場から“困った子ども”と捉えるのではなく、“困っている子ども”と捉えることの必要性を感じた。また、年度当初は、カリキュラム会議での保育サポート児の姿がどの子どもなのか分かりにくいことや、カバーに入る保育者がかかわり方に悩むなどの課題もあった。

＜学習会の進め方・内容＞

支援の方法を考えていくうえで大切にしたい手順を共有した。（下記の図）

①気になる行動に気づく　②行動の理由を考える　③望ましい行動の提案

そして、子ども自身が自信をもつことや成功体験の積み重ねにより、自尊感情や自己肯定感が育っていくことを理解し、保育の中で実践していけるように話し合った。

その後、一人ひとりの子どもの特性を理解してかかわるために、子どもの姿と巡回指導での助言内容を共有した。保育サポート児担当者が『担当している子どもにどのようなかかわり方をしているのか』『支援の中で何を大切にしているのか』などを伝え、どの保育者も同じ支援方法でかかわれるように共通理解できるようにした。

＜成果＞

・普段かかわりの少ない保育者にとって、保育サポート児担当者が保育でポイントにしていることを知る機会になり、どの保育者も同じようなかかわりを意識することにつながった。
・気になる行動やその理由を考えることで、より子どもに寄り添った支援ができることを確認でき、一人ひとりに応じたかかわり方を学び合うことができた。
・保育サポート児だけでなく子どもの姿の背景を見取り、手立てを考えていくことはどの子どもにとっても同じであることが再認識できた。

◆第４回　①『地域とのかかわりを深めるために　～地域連携の視点から～』

様々な交流活動が再開できるようになり、保育者の中でも交流に対して意欲が出てきた。色々な人と交流することが子どもたちにとってよい刺激となり成長や学びにつながるということは理解しているが、実際に計画を立てようとすると５歳児の活動に偏ってしまったり、相手方との調整が難しく交流が進みにくかったりする現状があった。子どもの経験が豊かになるために、『せせらぎならでは！』の地域資源について考える機会とした。

＜学習会の進め方・内容＞

地域資源を出し合い、子どもの実態からできる交流案や、近隣の環境や施設をどう活用していくか、地域の人々とどうつながっていくかを話し合った。また、そのかかわりやつながりが子どもたちにどう影響し、育ちにつながるのかを考えることにした。

どんな地域資源がある？
〇近隣小学校や保育所
〇図書館
〇商店街やお店の人
〇駅、電車、川、鯉など

→

交流や活用の具体的な案
・小学校の校庭、図書室などの施設利用
・小学校や保育所との行事を活かした交流を提案
・図書館でのお話会、絵本の貸出・返却体験など
・子どもの興味に合わせた散歩ルート
（鯉のえさやり、季節の花や多様な電車を見る）

期待される子どもの育ち
・子どもの興味や関心を広げていく。
・様々な人とのかかわりの中で優しさや温かさに触れ、親しみがもてるようにする。
・地域施設を利用し、家庭にも共有することで家庭と地域がつながるきっかけづくりにする。

＜成果＞

・地域資源について共有し、幅広い交流の方法を考えるきっかけになった。
・地域に根差した、地域に愛されるこども園になることをめざして、できることから取り組む方向性を確認することができた。
・子どもも大人も地域を大事にしようとする気持ちを育んでいきたい、という思いを共有することにつながった。

◆第４回　②『連絡帳・クラスノートについて　～子育て支援の視点から～』

“子どもの様子や保育内容を分かりやすく保護者に発信する”“子育て支援”のために、ポートフォリオやモニターでの写真上映を行っているが、連絡帳やクラスノートも大事なツールであると感じている。そこで、毎日の連絡帳やクラスノートについて振り返り、『書くことの意図』や『書く内容』『どんなことが伝えられるか』を職員間で意見交換を行うことにした。これらを活用することで、保護者の『ほっと安心』をめざしていきたい。

＜学習会の進め方・内容＞

伝え方や意識していることを共有したり再確認したりできるように、グループでワークをして職員同士で意見を交流し、書き方・伝え方のヒントになるようにした。

連絡帳・クラスノートなど、保護者への伝え方について	
どんなことを書いていますか？	書くときに意識していることは？
・子どもが楽しんでいたこと ・子どものかわいいつぶやき ・エピソードや成長を感じたこと ・友だちとのかかわり ・生活面のこと ・遊びの始まりや発展、継続など	・想像しやすいように具体的に書く ・クラス運営で大切にしていることとつなげる ・“丁寧に短く分かりやすく”を意識する ・子どもと保護者の会話のきっかけになるようにする ・安心してもらえるように肯定的に書く ・保護者からの悩みに対しては、直接話をする

＜成果＞

・保護者への伝え方を再確認できたり、書くポイントを共有したりして、保育者の『こんなことを伝えていきたい』気持ちが大きくなり、すぐに実践につなげることができた。
・ちょっとした工夫や保育者の心もちで表現の仕方が変わることを知り、保護者とつながるツールの重要性を共有し、確認することができた。
・保護者の不安軽減＝『ほっと安心』、成長の喜びを分かち合える＝『笑顔いっぱい』になる内容を積み重ねていくことの大切さを、確認することができた。

◆第５回　『ポートフォリオをつくろう』

１年に数回、ポートフォリオを通して子どもの様子を知らせている。ポートフォリオが保護者啓発に分かりやすく有効な方法であると分かっているが、作成に時間がかかることやつくる経験が少なく、発信方法として取り入れにくさを感じている実態があった。

そこで、簡単に取り組め、保護者にもより分かりやすく子どもの様子や学び、成長した姿を伝えられるとともに、作成したポートフォリオが保育者自身の記録にも活かせるものにもしていく為に作成する機会を設けることにした。

＜学習会の進め方・内容＞

・ポートフォリオ作成のポイントを共有する
・時間内で話し合い、まとめて作成する
・作成したポートフォリオを互いに見合い、語り合う
・互いの意見をもとに、次回の作成時のヒントとし、保護者啓発に活かす

＜パソコンで作成してみよう＞

【ポートフォリオづくりのポイント】

・写真やコメントから子どもの育ちや学びを見取る
・保護者へ伝えるということを意識し、文章は簡潔に分かりやすくする
・伝えたいことを強調できるように、題名やレイアウトも工夫する

＜成果＞

・作成の仕方やポイントを共有することで、伝わりやすいポートフォリオを作成しようとする意識が向上した。
・子どもの成長や学びに焦点をあてて作成する過程で、担任間の思いの共有にもつながった。
・改めて子どもの成長を感じたり、遊びの変化や過程を作成しながら整理したりしていくことができた。
・他のグループのポートフォリオを見ることで、多様な思いを伝える方法を知ることができ、次の作成時のヒントとなった。
・３枚程度の写真でも遊びの姿や子どもの育ちを充分に伝えられることが分かった。

５．研究の成果と次年度に向けて

＜成果＞

〇研究に取り組むことで、子どもの自尊心や自己肯定感を高めるには、肯定的な見取りにもとづいた「保育者のかかわり」「環境構成」が重要であると確認できた。

〇発達状況や発達過程を踏まえながら、乳児期からの実体験・経験の積み重ねが重要と分かった。

〇園内研究会では、子どもが安心して遊ぶ姿から保育者との信頼関係を基盤にしながら、子どもが主体的に活動できるよう寄り添い、見守り、援助する大切さを学んだことで、子どもが自己発揮し、“もっとやりたい”という意欲につながった。

〇事例研究会を通して、保育者は子どもが何を楽しんでいるのかを考え、タイミングを見ながら援助や環境の工夫・再構成を行ったり、遊びと遊び、子どもと子どもをつなぐ仲介者になったりしてきたことが笑顔いっぱいの子どもの姿につながった。

〇園内研究会、事例研究会や園内学習会を通して、様々な視点からの捉えに気づき、他の人の意見を知って視野が広がったり、保育者間の連携や共通理解の意識が高まったりすることが、同僚性につながった。

〇子どもの様子をノートやポートフォリオ、個人懇談会などで発信する時のポイントを確認することで、保護者と子どもの成長を共有する内容が充実し、信頼関係づくりにつながった。

〇子ども同士のつながりを意識し、保育者同士が連携することで自然な異年齢でのかかわりが見られるようになり、友だちや遊びへの興味・関心が高まった。さらに自分もやってみたい気持ちが芽生えることで遊びの幅が広がった。

〇近隣の施設、小学校、農園など地域とのかかわりが増えたことで積極的に挨拶をしたり、感謝の気持ちをもってかかわったりするなど、思いやりや相手を尊重する気持ちが少しずつ育ってきた。

＜次年度に向けて＞

○今年度の保育者の学び（成果）を活かし、『自分も大事、みんなも大事』に向けて教育・保育を進めていきたい。

○０歳から５歳までの発達の連続性を意識した生活や遊び環境を整え、子どもがその環境に自らかかわり自信を積み重ねていけるようにしたい。

○様々な人や地域とのかかわりをより計画的に行い、また、ねらいを明確にしながら充実した地域との関係性を構築していきたい。

○調理員や栄養士、看護師の専門性を活かし、子どもの経験や育ちを豊かにしていきたい。

○教材研究や職員間の連携を強化することで、子どもの育ちや学びにつながる環境構成や保育者の援助について検討を深め、保育者の専門性を高めていきたい。

○保育者間で教育・保育について語り合う時間や場所を保障し、多様な考えを受け入れたり、自分の考えや思いを伝えたりしながら保育の楽しさを共有することで、さらなる同僚性の高まりにつなげていきたい。

○肯定的な見取りを意識することで、自尊心、自己肯定感を高めながら、子どもたちや保護者、保育者が『ほっと安心でき、笑顔いっぱい』になることをめざしていく。

自分も大事みんなも大事に向けて

令和５・６年度　幼児教育研究

みんなでつくろう　ほっと安心　笑顔いっぱいのこども園

～　自分も大事　みんなも大事　～

＜　１年次　研究報告　＞

令和６年３月　発行　（R5-199）

【発行】八尾市

八尾市教育委員会

〒581-0003　八尾市本町一丁目１－１

【TEL】072－991－3881（代表）